

令和5年度 第11回「鳥越地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年8月26日（土） 14：30～15：30

場 所：鳥越公民館

参加団体等：町会長協議会、白寿会、文化振興連絡会鳥越地区、とりごえ子ども会、にわか工房、南消防団鳥越分団、主任児童委員、鳥越うれっしゃ会、鳥越社会福祉協議会、鳥越地域コミュニティー組織設立準備会、交通安全協会鳥越支部、鳥越建設推進協議会、ワンネススクール、公民館長、白山市町会連合会理事ほか

発言【1】

- (1) 新生児におむつ券 24,000 円分をもらえるようになり、お母さん方に大変喜ばれている。しかし、おむつを必要とする時期が兄弟で重なる場合、おむつの費用がかかるため、1 回だけの配布ではなく、金額は少なくてもいいので、1 歳の誕生日にもう 1 回、助成してもらえると有難い。

また、粉ミルクを飲ませている母親からは、粉ミルク代とおむつ代が掛り、家計が苦しいという話もあった。赤ちゃんのおむつ、粉ミルクは必要とする期間が短いので、なんとか手厚く助成してもらえないか。

- (2) 今年の夏は猛暑で、小学校のプールも閉鎖されたため、親が海やプールに連れて行った。鳥越から一番近いプールでもクレインで、山ろくには何もない。バードハミング鳥越のプールを再利用するなど、子育てしやすい環境づくりにしてほしい。

【市】

- (1) 赤ちゃんのおむつ券は、今年から、白山市独自の施策として取り入れております。提案いただいた粉ミルクの助成については、子育て世帯の経済的負担を軽減することから、少子化対策として有効ではありますが、予算規模や対象者等を考慮しながら検討させていただきたいと思います。

- (2) プールについては、学校のプール解放が一番良いと思いますが、今年度は特に猛暑が続き、熱中症が心配され、各学校のプール開放は行われませんでした。

バードハミング鳥越については、平成4年度に開業し、30年以上の経過に伴い老朽化による不具合が確認されています。屋内プールに関しては平成24年度に運営を休止し、10年以上未使用の状態です。プール再開となると、機械設備や建築関係で多額の工事費用が発生することが予測されるため、再利用

は困難と考えております。

発言【2】

- (1) 子どものいない地域・集落は人口減少で、空き家だらけ。渡津地区も、半分以上が空き家になっている。集落をどう守っていくか、非常に厳しい。

今後の白山ろくの空き家、少子化、人口減少に対し、地域をどう存続させていくか、市として具体的に検討してほしい。

- (2) 政府が進めている「みどりの食料システム戦略」では、2030～2050年までに、稲作全体の4分の1を有機農業に変えるという目標を掲げているが、我々農家に対して具体策・マニュアルが示されていない。

稲作を有機農業に変えるのであれば、市でも検討してほしい。

- (3) 大型バスで観光客が来た時に、宿泊施設が無い。吉野工芸の里の前を現在、資材置き場などで使っているが、県と相談して、そこに宿泊施設・ホテルを建てられないか。宿泊を兼ねて内外の方が利用でき、白山ろくの良さをPRしていただけるような戦略を考えてほしい。

【市】

- (1) これまでのように集落を維持していくことは厳しいことから、周辺の集落との協力の中での自治会運営も視野に検討していかなければいけないと思います。

定住者がなかなか増えない状況の中で、白峰地区では、大学のサテライトを置き、大学生が地域の様々な活動に参加することで、関係人口の拡大につなげています。

市としましても、空き家バンクや山ろく地域定住奨励金制度などを通じて移住促進に努めておりますが、就業場所や買い物、地域コミュニティ、冬場の生活環境等による条件が利用者のニーズに合致するかが大きいと考えています。

- (2) 有機農業については、栽培管理に手間がかかること、また収穫量も少ないなど課題も多いと認識しており、生産者の理解を得ることが重要となります。

今後は、農業者が新たに有機農業の取り組む際の知見や技術の集積を図りながら、有機農業の拡大に向けて機運を高めていきたいと思っております。

- (3) 資材置き場に保管されている資材（コンクリートブロック製品）は、白山市災害復旧工事用の資材です。保管時期は、市内全域の林道災害復旧工事が終了するまでとなるため、全て撤去できる時期は現在未定です。

吉野工芸の里施設内の御仏供杉は国指定天然記念物であり、プロモーションを強化することで、ジオを体感できる場所としても、白山ろくの良さをPRできると思いますが、当該エリアにおける宿泊施設等の建設計画は現在のところ

ありません。

新たに宿泊施設やホテルを建設することは難しいですが、白山ろくの魅力ある自然や歴史文化を学び体験していただけるよう、教育旅行をはじめとした観光誘客を図るために、プロモーション会議でPRしています。9月下旬には、千葉県船橋市から約270名の中学生の教育旅行を受入れ、白山ろくの魅力を味わい、体感してもらったところです。

発言【3】

- (1) 新聞は情報を得るための一つの情報源なので、できるだけ多くの情報を新聞の紙面を活用して、市民に知らせてほしい。
- (2) 白山市の主たる産業が農業であることを考えると、農業振興課の職員が減っているのが非常に寂しく思う。適材適所で人員配置を再度、見直してほしい。
- (3) 金沢などから移住してきた人達からよく聞くのは、教育環境は素晴らしいが、中学校を卒業して高校への通学が一番の難点だということ。石川線を活用して、生徒が楽に通学できるような環境ができればいい。

コミュニティバス「めぐーる」で、鶴来駅まで一気に運ぶといった、交通網への思い切った施策も今後必要ではないか。鳥越に定住しても、高校生以上になると、通学に時間がかかり、通学費が非常に高い。

- (4) テレワークも一つの働き方であり、山ろくのネットワークの充実を強く望む。そういったことも、定住への呼び掛けになるのではないか。子どもに対する投資だと思い、前向きに検討いただきたい。

【市】

- (1) 北國新聞、中日新聞、読売新聞に毎月第4月曜日、白山市の行事や行政情報を掲載し、情報発信をしております。また、市の行事やイベントを開催する際は、その都度、事前に県内の新聞社やテレビ局等の報道機関に報道依頼を提出し、白山市のPRに努めております。
- (2) 職員が減っているのは、農業振興課に限ったことではなく、各課より人材が不足しているという話がでています。市民の皆さんに、人が足りないのではないかと懸念をもたれているということは分かりました。適正な職員数を確保し、適材適所の人員配置を行うことができるよう努めてまいります。
- (3) コミュニティバス「めぐーる」については、幹線となる鉄道や路線バスを補完する役割で運行しています。通学時間帯には白山ろく地域を路線バス「河原山線」等が鶴来駅に向けて石川線に接続するダイヤで運行し、「めぐーる」は路線バスに接続するように運行しています。各公共交通機関の役割分担のもと、

効率よく運行することで、白山ろく地域の児童生徒の通園通学など、様々なニーズに応じております。

また、通学費については、「白山ろく地域高等学校通学費助成制度」により、白山ろく地域に住む高校生の保護者に対して、通学等に係る費用の一部を助成するなど、これまでも高校への通学支援を実施するとともに、コミュニティバスについても工夫してきているところです。通学支援については引き続き実施してまいります。

- (4) 令和2年度に白山ろく地域情報通信基盤の設備更新工事を終えており、あさがおネットは、1Gbps のサービスを行っています。

なお、設備更新工事前の契約のままの場合は、契約変更が必要となりますので、あさがおテレビにご相談をお願いいたします。

発言【4】

ジオパークが世界認定を受けてから、最初のイベントを下吉谷町の「綿ヶ滝」で開催し、多くの方が来てくれた。ジオパークは3年後に見直しがあると聞いている。今後、綿ヶ滝だけでなく、そういった事業を継続して行うことを計画しているのか。1回限りのイベントではなく、継続して行い山ろくに人を呼び込む取り組みをお願いしたい。それにあわせて、地元も協力していく。

【市】

今年度は、白山手取川ジオパークの世界認定を地元の皆様と、市が協働でお祝いし盛り上げたいと考え、ジオスポットの一つである綿ヶ滝で初めて開催しました。今年度開催しました綿ヶ滝でのイベントについては、今後はこれを機に、地域の皆様で取り組んで地域を盛り上げてほしいと考えております。

ジオパーク活動については、ユネスコが掲げる目標達成に向け、地域や関係者が継続して取り組んでいることが大切になります。今後とも、市全域で様々な取り組みについて、地域や関係団体の皆様と共に行っていきたいと思っております。

発言【5】

ミントレイノ、バードハミング、清流などの大きな建物が、老朽化している。そこを整備して、通信環境を整えソフト関係の会社で、若い人たちを呼び込み、定住してもらえば、製品を作らなくても人を呼び込めるのではないか。

【市】

合併前に建設された施設は、市全体で多く残っております。これらをすべて

整備することは、多大な財政負担となり、将来の子ども達や市民への負担となります。生活に必要な施設を優先し、整備に取り組むこととしております。

まずは、既存や休止施設について今後も活用することが、市民の方々にとって有効なのかを取捨選択することも大事であるとともに、地域に住む方がどのように活用するかも大切だと考えています。就業場所についても、この地域と同じ条件の場所は日本全体にありますので、コスト面や雇用の確保など、企業ニーズに合うかが重要と考えております。